

僕と鴨川

山口遥大

(2019年度入学 鈴木ゼミ3期生)

「私の好きな京都」について書くと決まった時、鴨川が1番に浮かんできた。それほど、大学生から京都に住み始めた僕にとって、鴨川の印象は強かった。京都には小学校の修学旅行や、家族で何回か訪れたことはあった。高校生までの京都のイメージは、金閣、銀閣、清水寺、二条城、祇園など歴史的建造物が多く、華やかな街であった。大学に入学した当時、こんなにも京都が好きになるとは思ってもいなかった。鴨川は、はじめての一人暮らしの楽しみや不安など、様々な感情を抱く僕の心を落ち着かせてくれた存在であり、今も変わっていない。普段の生活の中で身近に鴨川という存在があり、京都の暮らしをより魅力的にしてくれた。だからこそ鴨川が大好きなのだ。

次は鴨川の概要と歴史について話していく。鴨川は京都市北西部の嵯峨野岳を源流とし、雲ヶ畑を経て鞍馬川を加えた後、上賀茂付近で京都盆地に出る。その後、出町付近で、京都市の北東から大原、八瀬を流れ下ってきた高野川と合流し、さらに四条大橋上流で白川を加えた後、京都市の中心部を貫流しながら南西方向に流れを変え、下



鳥羽付近で桂川に注ぐ。鴨川の流域は、北山や東山の山地と鴨川などの河川の氾濫によって形成された扇状地からなり、流域の約7割を山地が占め、残りの約3割の平地に京都市の中心市街地が形成されている。鴨川の由来は諸説あるが、平安京造営以前から鴨川の中流域に定住していた賀茂氏に由来すると言う考え方が一般的である。賀茂氏の氏神である上賀茂神社と出町付近の下鴨神社にちなんで、高野川合流点より上流を「賀茂川」、下流を「鴨川」と表記することが多い。

鴨川の歴史の中で興味深いと思ったことが一つある。普段見ている穏やかな雰囲気 of 鴨川とは違い、過去には氾濫を繰り返していたことだ。昭和10年には水害に見舞われ、三条大橋を含む多くの橋が流失した。鴨川の治水の歴史は古く、平安京造営の頃から築堤工事が行われていた。天長元年には鴨川治水を担当する「防鴨河使」と呼ばれる官職が置かれ、より積極的に築堤工事が進められた。貞観13年(871年)には堤防を害することのないようその近辺での耕作を禁止する命令が出されるなど、朝廷では鴨川の治水を非常に重要視していたことがうかがえ、平安末期には既に現在見られるような連続した堤防が設置されていたと考えられている。近年の改修工事においては自然石を使用し、コンクリートの露出を避けるなど京都の景観に配慮して進められている。僕は鴨川のように人々が利用しやすく整備されていた川を見たことがない。日本にこんな川があるのかと凄く驚いた。今、このように何度も工事への配慮があったことで、人々の憩いの場としての美しい鴨川があるのだと思った。

ここからは自分が京都に住んで感じた鴨川の魅力について話したい。数ある魅力の中で一番良いのは四季折々で違った鴨川を感じられる。京都に住めば一年を通してその贅沢な風景を楽しめる。春は桜が満開で多くの人が訪れ、お花見や写真撮影を楽しんでいる。夏には二

条から五条の鴨川沿いの飲食店で、屋外の川がよく見える場所に納涼床を作り、宴を楽しむ多くの人で賑わっている。僕はまだ納涼床を体験したことがないので一度は味わってみたい。秋は紅葉に染まる。冬になれば京都産業大学周辺には雪も積もり、鴨川の冬景色は幻想的である。これまで季節の変化を意識することはなかったが、身近に鴨川が存在することで四季の魅力を肌で感じるできるようになった。四季の始まりに胸を躍らせたこともあれば、季節の終わりを名残惜しく思う時もあった。どの季節も魅力的ではあるが、お勧めしたいのは春である。鴨川沿いの桜並木は圧巻であり、その景色を目に焼き付けようと多くの人が足を止める。桜をじっと眺めたり、写真に収めたりしている



ここまでは景色について話してきたが、ここからは人々との暮らしについて話していく。鴨川は京都に住む人々にとって、生活の一部であると感じた。朝、早くから散歩やランニングをしている人。夕方、友達とスポーツをしている人。夜、ベンチに座っている人など、一日中多くの人が様々な形で鴨川を利用している。僕も気分が落ち着かない時や不安になった時、鴨川を散歩する。水が流れる音を聞き、明日からまた頑張ろうと前向きな気持ちになる。

京都について聞かれた時は鴨川の魅力を伝えたいと思う。大学生活を京都で暮らすことができ本当に良かったし、これかも住み続けたいと思えた。普段生活をしていると、時の流れを早く感じるが、鴨川を訪れると時が止まっているかのような、非日常的な感覚を与えてくれる。京都は観光都市であり、多くの人々が日本国内だけでなく、海外からも訪れる。訪れた際には是非鴨川の魅力を肌で感じ取って欲しい。きっと鴨川が好きになるだろう。

参考文献

鴨川/京都府ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/kamogawa/>